

平成 2 1 年度

大分大学大学院医学系研究科
博 士 課 程
(第 3 次募集)
学 生 募 集 要 項

出願期間：平成 21 年 2 月 26 日（木）～2 月 27 日（金）
試験期日：平成 21 年 3 月 10 日（火）
合格者発表：平成 21 年 3 月 20 日（金）

平成 2 1 年 2 月

大 分 大 学

目 次

大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー	1
【学生募集要項】	
1. 募集人員	3
2. 出願資格	3
3. 出願資格認定	4
4. 出願手続	5
5. 受験票の交付	7
6. 入学者選抜方法	7
7. 合格者発表	7
8. 入学手続	7
9. 問合せ先	7
【入学案内】	
1. 目的	8
2. 構成及び修業年限	8
3. 特色	8
4. 授業科目と担当教員一覧	9
5. 履修方法	14
6. 学位の授与	14
7. 入学料及び授業料	14
8. 奨学金制度	15
9. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度	15
10. 学生教育研究災害傷害保険	15
11. 長期履修制度について	15
大分大学位置図	16

社会人への特例措置

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることになります。

このため、大学院設置基準第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人の就学に特別措置を行うことが配慮されています。

このことを踏まえ、本学大学院医学系研究科博士課程では、医学並びに医療関連分野で活躍している社会人に対し、高度の医学研究能力を身につける機会を与えるため、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用して、平成13年度から昼夜開講制による授業等を実施しています。

大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

修士課程

優れた指導力を持った教育・研究者、医療人及び技術者を育成するため、理論的・実践的教育を通じて、医学・医療の諸問題に対処できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

（医科学専攻）

体系的・集中的な教育により、医学以外の専門知識を備えた人材に、それぞれの専門分野と融合した新たな医学に関わる教育・研究分野や技術を創出できる研究者の養成を目指します。

（看護学専攻）

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指します。

博士課程

国際的に活躍できる自立した教育・研究者及び診療能力の高い臨床医の育成を主眼し、そのための能力と基礎となる豊かな学識及び人間性を持った人材の養成を目指します。

求める学生像

修士課程

（医科学専攻）

- 1 医学の基本的知識や研究手法を理解・吸収し、各自の専門分野の研究や技術に応用することにより新しい発想の研究や技術開発を志す人
- 2 近年の医学・医療を取り巻く環境を理解し、全ての人々が健康で幸福な生活を享受できる社会の実現を目指し、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決への取り組みを志す人
- 3 医学と各自の専門分野との融合を図り、健康増進に関連する産業界の活性化への貢献を志す人
- 4 豊かな人間性や指導力を持った教育・研究者として自立し、博士課程への進学を志す人

（看護学専攻）

- 1 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識及び技術の習得を志す人

- 2 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す人
- 3 看護の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を習得し、優れた教育活動の実施を志す人
- 4 看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す人
- 5 複雑かつ多様な健康問題について、柔軟に対応することができ、学術的・国際的に活躍することを志す人

博士課程

- 1 医学の分野において、国際的な舞台で活躍することを志す人
- 2 専門分野における高度な知識を吸収し、その整理・明確化を行い、問題点の発掘を行い、その本質を基礎医学、臨床医学、社会医学等の枠にとらわれない総合的・科学的観点から探求し、自らが設定した課題について研究を志す人
- 3 自らの研究成果について、国際的に評価の定まっている学術誌に公表し、積極的に評価を受けることを志す人
- 4 医学の進歩に貢献し、人類の健康について、維持・増進への取り組みを志す人
- 5 国民のがんに対する関心・意識の高まりに伴い、高度な教育・研究・診療能力を兼ね備えたがんプロフェッショナルを志す人

入学者選抜の基本方針

修士課程

（医科学専攻）

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、医学以外の学部出身者を対象に、近年急速な進歩により著しい発展を遂げた医学・医療の分野を多様な観点から捉え直す能力を求めます。そのため、各自の多様な専門分野と医学の分野との融合に関して明確な目的意識と基礎的知識及び柔軟な発想を求めます。

（看護学専攻）

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、昼夜開講制を導入して看護職経験者を積極的に受け入れます。こうした志願者を含め看護学の更なる探求心と倫理観豊かな医療人としての素養を求めます。

博士課程

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、高度な専門的知識、技術及び能力を求めます。また、これらを支える高い道德観と豊かな人間性を備え、国際的・学際的に活躍できる資質を求めます。

学 生 募 集 要 項

1. 募集人員 13名

[募集人員は、昼夜開講制による社会人を含みます。]

専 攻	領 域	募 集 人 員
医学専攻	基礎研究領域	13名
	臨床研究領域	
	がん研究領域	

(備考)

1. 入学志願者は、志望する領域に順位をつけて、第2志望まで出願することができます。
2. 社会人とは、官公庁、病院、企業等において医師又は研究者として勤務し、入学後も職を有する者をいいます。

社会人が、大学院教育を受けやすくするために、本研究科では大学院設置基準第14条の教育方法の特例(昼夜開講制)を適用します。教育方法の特例を受ける者は、指導教員と相談の上、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受けることができます。(表紙裏面の「社会人への特例措置」参照)

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者(平成21年3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可)

- (1) 大学の医学、歯学又は修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程(最終の課程は医学、歯学又は獣医学)を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は医学、歯学又は獣医学)を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程は医学、歯学又は獣医学)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程に4年以上在学した者、外国において学校教育における16年の課程(最終の課程は医学、歯学又は獣医学)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程は医学、歯学又は獣医学)を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (6) 文部科学大臣の指定した者

旧大学令(大正7年勅令第388号)による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者

防衛庁設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者

修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者(学位規則の一部を改正する省令(昭和49年文部省令第29号)による改正前の学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1号に該当する者を含む。)で、大学院又は専攻科において、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
大学(医学、歯学又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの

(7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

3. 出願資格認定

前記「2. 出願資格」の(5)、(6)の、(7)のいずれかにより出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。

(1) 提出書類

出願資格(5)により出願しようとする場合

提出書類	摘 要
出願資格認定申請書	本学所定の用紙を使用してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。
成績証明書	出身学校の長が証明したもの。
在学証明書(在学年次が明記されているもの)	出身学校の長が証明したもの。
研究計画書	本学所定の用紙を使用してください。

出願資格(6)の、(7)により出願しようとする場合

提出書類	摘 要
出願資格認定申請書	本学所定の用紙を使用してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。
成績証明書	出身学校の長が証明したもの。
研究計画書	本学所定の用紙を使用してください。
業績一覧	同上(主な業績のコピーを各1部添付してください。ただし、提出する業績は3篇までとします。)

(2) 提出期限 平成21年2月16日(月)17時まで(必着、1日のみ)

(3) 提出先 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

- (4) 郵送の場合 「速達簡易書留」郵便とし、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし郵送してください。
- (5) 認定の結果 出願資格審査の結果は、平成21年2月20日(金)までに本人に通知します。

4. 出願手続

(1) 出願受付期間

平成21年2月26日(木)～2月27日(金)

(2) 出願方法

第2志望の領域まで出願することができます。

出願を希望する者は、あらかじめ志望(第1志望)する修学指導教員(P9～P14)と研究内容等について相談の上、出願してください。

出願書類等は、本学所定の封筒を使用し、持参又は郵送により、平成21年2月27日(金)17時まで提出してください。

願書受付場所 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

受付時間 9時から17時まで


郵送の場合 「速達簡易書留」郵便で下記あてに郵送してください。

(平成21年2月27日(金)17時まで必着)

(あて先)〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

(3) 出願書類等

出願書類等	摘 要
入 学 志 願 書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。入学志願書下欄の「記入上の注意」をよく読んで記入してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。
受 験 票 ・ 写 真 票	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。上半身・脱帽・正面向きで本人であると確認できる写真(縦4cm×横3cm)をそれぞれの所定欄に貼ってください。
入学検定料払込証明書 (30,000円)	<p>以下のいずれかの方法により本学指定口座に振込んでください。</p> <p>郵便局・その他の金融機関での払込 本学所定の振込用紙を用い、郵便局・その他の金融機関窓口で振込手続を行ってください。</p> <p>コンビニエンスストア(一部)での払込 本学ホームページ http://www.oita-u.ac.jp/ (携帯版は http://daigakuic.jp/u.php?u=00041) から払込専用ホームページへアクセスするか、もしくは直接下記URLにアクセスし、指示に従い払込手続を行ってください。</p> <p>(払込専用URL) http://www.oita-u.net/ (携帯電話用URL) http://www.oita-u.net/mobile/</p>  <p>振込み後は、 の場合は郵便振替払込受付証明書(大学提出用)を、 の場合は収納証明書(コンビニによっては領収書)を、受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。 手数料は本人負担です。</p> <p>ただし、国費外国人留学生並びに平成21年3月に本研究科及び本学の他研究科修士課程(博士前期課程を含む。)を修了見込みの者で、引き続き本課程に進学する者は、納付する必要はありません。</p>

成績証明書	出身学校の長が証明したもの。(ただし,出願資格認定申請時に提出済みの場合は,不要です。)
卒業(見込)証明書 又は修了(見込)証明書	出身学校の長が証明したもの。日本語及び英語以外の証明書は,日本語又は英語訳を添付してください。
受験承諾書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。現に大学院に在学中の者又は官公庁その他民間会社等に在職中の者は,当該研究科長又は勤務先の所属長(病院所属であれば病院長)の受験承諾書を提出してください。
受験及び就学承諾書 (昼夜開講制による志願者のみ)	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。官公庁その他民間会社等に在職中で,入学後も在職のまま就学する者は,上記に代えて,受験及び就学承諾書を提出してください。
あて名票	本要項に添付している本学所定のあて名票に志願者の氏名,住所(合格通知等を受け取る場所),郵便番号を必ず記入してください。
受験票等送付用封筒	本要項に添付している本学所定の長形3号封筒に志願者の氏名,住所,郵便番号を記入し,郵便切手(350円)を貼ってください。
外国人登録済証明書	外国籍を有する者は,市・区・町・村長の発行した外国人登録済証明書を提出してください。なお,入学志願書等には,この証明書記載の氏名を記入してください。

(4) 出願上の注意事項

入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。

一度受理した出願書類等及び入学検定料は,いかなる理由があっても返還しません。

出願期間後に到着したもの及び出願書類等の不備なものは受付できません。

出願書類等は一括してとりそろえ,出願者が直接出願してください。

出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は,入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

障がいのある者等の事前相談について

障がいのある者等で,受験上特別な措置及び就学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者については,平成21年2月16日(月)までに,下記事項を記載した相談申請書(様式任意)に医師の診断書を添えて本学学生支援部入試課に提出してください。

- ・障がいの種類・程度
- ・受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・就学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・日常生活の状況及びその他参考となる事項

入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については,独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律及び国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシーに基づき,入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし,入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者については,選考資料として利用します。

5. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の9時から9時30分までに受付へ申し出てください。

6. 入学者選抜方法

(1) 入学者選抜は、筆記試験の成績、口頭試問の結果及び成績証明書の内容を総合して行います。

学力検査等の科目及び日時等

期 日	試験科目等	時 間	備 考
平成21年3月10日(火)	(筆記試験) 英 語	10:00 ~ 12:00	語学の辞書(電子辞書及び医学英語辞書類を除く。)の持込みを許可します。
	(口頭試問) 志望する領域を中心に行います。	13:00 ~	

試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認めます。

(2) 試験場

大分大学医学部 挟間キャンパス

所在地 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
(P.16 大分大学位置図参照)

交通アクセス バス利用(大分バス)

トキハデパート前又はJR大分駅前から「大学病院」行きを利用。
(所要時間約40分:410円)

7. 合格者発表

平成21年3月20日(金)10時

大分大学旦野原キャンパス教養教育棟前及び挟間キャンパス管理棟玄関前に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には郵送により通知します。

また、大分大学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の問い合わせには一切お応えしません。

8. 入学手続

(1) 入学手続日 平成21年3月26日(木)・27日(金)

(2) 受付時間 9時から17時まで

入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせします。

なお、入学手続き日に入学手続を完了しなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

9. 問合せ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL 097-554-6701

入 学 案 内

1. 目 的

本学大学院医学系研究科博士課程は、最新の学術を教授・研究し、豊かな教養を身に付けた教育・研究者及び医療人を育成し、もって国民の健康の維持増進を図り、更に地域及び国際社会の福祉に貢献する人材を養成することを目的とします。

2. 構成及び修業年限

医学専攻として専攻を単一化し、その中に「基礎研究領域」、「臨床研究領域」、及び「がん研究領域」の3つの領域を設定したうえ、相互に関連づいた履修を可能にしています。

修業年限は4年を標準とします。

3. 特 色

(1) 研究領域の構成と教員組織

医学部においては講座制を採っていますが、本研究科ではこれを更に推進し、従来の講座間の壁を取り払い、「基礎研究領域」、「臨床研究領域」と大きく二分しました。

このことにより、専攻内では当然のことながら、領域間においても教員同士密接な連携をとることが可能であり、人間の複雑多彩な生命現象を自然科学・社会科学を含めた広い視野に立ち、あらゆる分野からの研究活動が可能です。

さらに、両領域のがん関連科目で構成する「がん研究領域」を設置し、多角的ながん研究拠点として社会的要請に応えうる人材を育成します。

(2) 複数の教員による指導体制

医学の高度化・専門化・細分化が急速に進む現在、基礎医学・臨床医学の区分にとらわれず、それら相互間、あるいは分野間双方に係る研究についての指導体制をとる必要から、修学指導教員・研究指導教員の複数指導体制を採っています。

4. 授業科目と担当教員一覧（平成20年度現在）

【基礎研究領域】

注：()以外の教員が修学指導教員です。

授業科目	授業科目の概要	担当教員
組織病理学	生検・手術検体の処理，組織標本の作成，病理組織診断の習得，剖検例のまとめとCPC発表を行う。	横山 繁生 駄阿 勉
癌のゲノム医科学	癌化のメカニズムの核心であるゲノム異常を網羅的に解析して，各臓器癌の発症，進展の分子機構を明らかにする。	守山 正胤 松浦 恵子
イオンチャネルの分子構造・発現・転写因子	電位依存性イオンチャネルは電位感受性モチーフとイオン選択フィルターからなり，主にC端とN端とにキネティックスを調節する機構が備わっている。本過程ではチャネルの分子構造を変化させそのときの通過電流特性を解析することで分子構造に依存するチャネル開閉機構を明らかにする。	小野 克重
スピン解析学	フーリエ展開による NMR 及び，スピンラット剤による ESR のシグナル展開の理論と実際を学ぶ。	横井 功治 徳丸 治
分子形態学	細胞間コミュニケーションを担うギャップ結合(GJ)に対する単クローン性抗体を用いた GJ 形成過程を解析する。	藤倉 義久
細胞形態学	糖尿病の合併症，特に腎症の発症・進展機序を形態学的に解明する。	伊奈 啓輔
細胞生物学	粗面小胞体機能を中心に細胞分画法，タンパク質精製と動態解析法等。	渡邊 誠
マトリックス生物学	細胞外マトリックスに存在する分子の発現や機能について学習する。	吉岡 秀克
糖尿病の分子薬理学	薬物の新規標的分子を探索する細胞生物学的研究法を，糖尿病治療薬を対象として紹介する。	仁木 一郎
寄生動物学	寄生蠕虫類の形態・分類，生活史，進化，形態および DNA 診断。マラリアの分子疫学，診断，G6PD 欠損症。	(長谷川英男) (川本文彦)
節足動物媒介性感染症	吸血性昆虫やダニが媒介する感染症の伝播の多様な仕組みや環境要因変化，特に温暖化の影響を学ぶ。	高岡 宏行 江下 優樹
微生物感染免疫学	細菌やウイルス感染に伴う病態の発現機構，なかでも宿主の自然免疫・獲得免疫応答について講義・演習・実習により理解・習得する。	西園 晃
微生物分子生物製剤学	ワクチンやグロブリンについての基本的理解と，それらの開発・応用について講義・演習・実習により習得する。	伊波 英克
感染症疫学	感染症の発生と流行様式を血清疫学・分子疫学の面から学ぶ。	牧野 芳大
臨床疫学	流行病の把握を行い，最も鋭敏な指標を選んで，疾病の進展の把握やその予防法の効率的な活用を学ぶ。	青野 裕士
産業中毒学	産業現場で利用されている種々化学物質の中毒を予防するため化学物質の曝露，吸収，分布，代謝，排泄の各プロセスでの化学物質の動態を習得し，実践的な中毒予防策を実践できるようにする。	

DNA 多型分析の実務的応用	核 DNA 多型およびミトコンドリア DNA 多型分析を親子鑑定および個人識別に応用し，その有用性と問題点について検討する。	岸田 哲子
生物物理化学	生物由来の化合物の構造・機能・反応性について，物理化学的に考察する。	(佐野 孝之) (久保田直治) (下田 恵) (谷川 雅人)
微小循環学	正常，高血糖下および高血圧下における細動脈，毛細血管および細静脈の形態と機能を教授し，毛細血管の新生についても言及する。さらに，毛細リンパ管(リンパ管)の同定，分布および癌の伸展とその関連を討議する。	(島田 達生)

【臨床研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
分子内分泌代謝・免疫病学	糖尿病をはじめとする生活習慣病および自己免疫疾患の発症メカニズムと治療に関する研究を，遺伝要因も含め臓器横断的に行う。	吉松 博信
循環器・腎臓病学	虚血性心臓病，不整脈，高血圧，腎疾患などの病態を代謝疾患との関連から解析する。	原 政英
呼吸器疾患の EBM	臨床研究を通じて呼吸器疾患の診断法と治療法の高度な理論と実践，および併発する感染症の制御ができ，EBM が構築できることを目標とする。	門田 淳一
循環器疾患の EBM	循環器・腎臓疾患の病態・診断・治療を理解し，最新の知見に基づく高度治療技術の実践ができ，EBM が構築できることを目標とする。	田村 彰
神経病態科学	神経疾患の分子病態解析，診断・治療法の開発，予防について実験や診療を通じて学習し，研究する。	熊本 俊秀
免疫と脳の病態科学	呼吸器疾患，免疫アレルギー疾患の病態を神経との関連で学習し研究する。	宮崎 英士
消化器感染症と発癌	消化器の持続感染と発癌との関連性を分子生物学的手法を用いて研究する。	藤岡 利生
消化器内視鏡学	消化器内視鏡学を通して上部・下部消化管疾患，胆道・膵臓疾患を研究する。	村上 和成
臨床心臓病学	心血管疾患の病態生理を理解し，発生機序から治療を考え，基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。具体的には虚血・再灌流障害の発生機序を研究し，合併する不整脈の発生機序の解明と治療の開発を目指す。	犀川 哲典
加齢心臓病学	加齢による心機能の変化を研究する。	
外科循環制御学	心臓疾患・動脈疾患に対する外科的介入方法とその適応を学び，外科侵襲の身体に与える功罪を理解する。	宮本 伸二
脳循環代謝・神経外傷病態	脳虚血・神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発。	藤木 稔
機能性精神病の生物・心理・社会学	うつ病や躁うつ病の病態生理や症状，経過，予後，治療を多角的に検討する。	寺尾 岳
脳と心の科学	分子生物学，脳画像，行動医学から見た精神医学。	穂吉條太郎

発生・発達小児科学	インフルエンザ脳症とその他の急性脳症,先天性代謝病-リソゾーム病酵素診断法の病態生化学の研究。	泉 達郎
アレルギーの年齢依存性と予防・治療学	小児アレルギー疾患の outgrow や成人への carry over を規定する因子を免疫学的,環境医学的,自律神経学的に検討する。	是松 聖悟
眼科学・病態と治療	視覚障害を生ずる疾患の病態を最新の手法で把握し,その治療を手術療法を含めて研究する。	中塚 和夫
視機能の科学	心理物理学的検査の理解と他覚的検査の実施,研究。	篠田 啓
気道粘膜免疫学	耳・鼻を中心とした上気道における粘膜免疫機構とそれを応用した中耳炎・副鼻腔炎のワクチン治療。	鈴木 正志
創傷診断治療学	創傷治癒に関する知識を得て,その診断,治療に関する考え方を学び,新しいアイデアを生む訓練をする。	藤原 作平
皮膚疾患病態学	最新の研究を,方法論の限界や質問を考えながらレビューし,皮膚疾患の病態を病理組織レベル,および分子レベルで解説する。批判力を養い,研究の歴史,関連領域も含めて幅の広い学識を得ることも目標とする。	片桐 一元
急性肺損傷 ARDS / ALI	敗血症,重症肺炎などで発症する急性肺損傷の臨床的・基礎的研究は麻酔科学の最も重要な分野の一つである。	野口 隆之
急性炎症と臓器障害	過剰な炎症反応は臓器障害を誘導するが,炎症性メディエータと臓器障害との関連について研究する。	岩坂日出男
運動器画像診断学	運動器疾患における画像診断の読影法やポイントについて臨床症例より学習する。	津村 弘
運動器疾患治療学	主に外科的治療が必要な運動器疾患について外科的治療法の計画について臨床例を基に学習する。	藤川 陽祐
外科臨床診断治療学	消化器外科疾患に対する術前診断,術式選択,摘出標本の観察・診断,および術後症例検討を行い,科学的な臨床判断力を養い,総合的な臨床能力を身につけることを目的とする。	北野 正剛
外科分子腫瘍学	腫瘍の増殖・発育・進展および細胞内シグナリングのメカニズムを学習し,各種癌細胞株や動物モデルを用いて,遺伝子およびタンパクレベルの解析を行い,その解明を目的とする。	白石 憲男
排尿機能病態学	下部尿路機能障害の病態生理学的特徴に基づいた診断と治療。	佐藤 文憲
生殖・周産期病態学	生殖医学,周産期医学における生理・病態について学ぶ。	檜原 久司
総合画像診断学	CT,血管造影,核医学,超音波診断学,磁気共鳴診断学を包括した総合画像診断学を,病理学,解剖学,遺伝子異常,臨床像と対比させて教授する。	森 宣
低侵襲治療学	非手術的に低侵襲治療を行なう放射線治療学と Interventional Radiology (IVR)を包括する。遺伝子多型の検索も含めた臨床腫瘍学,血管内治療新技術の開発研究方法等も教授する。	松本 俊郎

救命救急医学	救命救急医学を体系的に学びながら,救急部において実際に診療を行いつつ臨床研究を行う。また,心肺蘇生法,外傷初療ならびに災害医学などの救急標準化コースにおける指導方法を研究する。	重光 修
脳卒中・神経救急医学	脳卒中をはじめとした脳疾患および神経疾患の救急医療に関する最新の診断・治療を未来の展望も含め習得・研究する。	石井 圭亮
薬物治療解析学	適正な薬物治療の基礎となる薬効評価学,臨床薬理遺伝学を習得する。	大橋 京一
病態薬理遺伝制御学	薬物の体内動態を研究する方法を学び,薬物治療モニタリングが実施可能となる。	小手川 勤
創薬育薬医学	医療コミュニケーション能力と倫理感の優れた創薬育薬医療スタッフを育成し,「臨床研究の論理と倫理」を身につけるための科目である。	(中野 重行)
摂食・嚥下機能	前癌病変からの発癌,癌の転移とその因子,口腔粘膜癌における化学療法の治療効果予測,顔面形態と咀嚼機能,顎顔面先天異常発生に關与する遺伝子異常,口唇・口蓋裂児の顎顔面発育,口腔病変と病態生理。	
硬組織	顎骨の再建,骨髄幹細胞の分化誘導と骨・軟骨の再生,口腔インプラントの維持と機能。	河野 憲司
医薬品適正使用	医薬品の適正使用に必要な,医薬品情報解析,薬物体内動態解析,薬物相互作用解析,薬物投与剤形などの評価。	(武山 正治)

【がん研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
がんの診断病理学	がんの肉眼的,組織学的特徴を理解し,がんの病理診断に必要な免疫組織化学的手法および遺伝子診断法の習得を目的とする。	横山 繁生 守山 正胤
臨床腫瘍学	癌の発生,増殖,転移について分子生物学メカニズムを教授する。	川原 克信
内視鏡外科治療学	内視鏡外科の理論の理解と技術の開発,また生体侵襲や全身・局所への免疫性,腫瘍の発育浸潤に与える影響を,基礎的・臨床的観点から明らかにすることを目的とする。	北野 正剛 白石 憲男
がん放射線治療学	各種疾患に対する通常の外部照射法や,定位放射線治療,強度変調放射線治療,密封小線源治療などの適応・方法・効果・副作用を教授し,がん治療における放射線治療の意義を学ぶ。	森 宣
がん薬物療法学	がん薬物療法 of 選択法,支持療法,効果判定法などを習得する。薬剤の薬理,がん臨床研究の方法論を理解し,標準的薬物療法の開発および新規抗がん剤や分子標的薬剤の臨床開発を行う。	(白尾 國昭)
緩和医療学	癌性疼痛の機構を理解し科学的診断法,薬物療法,神経ブロック療法などの多角的治療法の理論的背景を理解し実施方法を身につけることを目的とする。	野口 隆之

サイコオンコロジー	がん患者の不安やストレス, QOL, インフォームド・コンセント, がん患者への心理的ケアやグループカウンセリング, グリーフワーク, 安楽死や尊厳死等の問題を社会心理学, 臨床心理学ならびに倫理学の立場から多角的に論考し, 教授する。	(上野 徳美) (西 英久) (林 智一)
呼吸器・血液腫瘍診断治療学	呼吸器・血液腫瘍に対してエビデンスに基づいた標準的治療を適切に行う能力, エビデンスを構築するための基礎的・臨床的研究の意義を理解し, それを遂行する能力や臨床的問題への解決・判断能力を養う。同時にがん薬物療法専門医の取得を目指す。	門田 淳一
消化器腫瘍診断治療学	消化器腫瘍の診断・治療法の最近の進歩および早期診断・最新治療の導入により, 癌患者の QOL 向上の可能性について学ぶ。	村上 和成
腎尿路生殖器腫瘍診断治療学	腎尿路生殖器腫瘍の細胞・分子生物学的特徴に基づいた診断と治療。	三股 浩光
婦人科腫瘍診断治療学	婦人科領域の腫瘍における病因・病態について学ぶ。	奈須 家栄
乳房腫瘍診断治療学	乳腺疾患の基礎的な診断・治療法の教授と多くの無作為比較試験から得られた科学的な根拠に基づく総合的な臨床能力を学習する。	山下 眞一
中枢神経腫瘍診断治療学	中枢神経腫瘍を形態・脳機能・分子生物学的に総合診断する。	藤木 稔
皮膚腫瘍診断治療学	皮膚腫瘍の病態を病理組織レベルおよび分子レベルで理解し, 診断, 治療法について学習する。	藤原 作平
骨軟部腫瘍診断治療学	骨および軟部に発生する腫瘍(特に肉腫)について, 診断と治療を学習する。	津村 弘
頭頸部腫瘍診断治療学	頭頸部は多様な機能を持つ臓器が隣接し, この領域に発生した腫瘍による症状・所見はそれぞれ特徴がある。本講義では頭頸部の臓器に発生する腫瘍の制御と機能の維持に関する基礎的・臨床的な課題について学ぶ。	鈴木 正志 河野 憲司
小児腫瘍診断治療学	小児脳腫瘍, 血液腫瘍の発生, 病態学。	泉 達郎

【全領域共通の選択必修】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
研究推進実践論	<p>(実践セミナー)実験の手法や手技, 各分野に共通した基本的理論修得のために必要な最新の医学・医療知識を学ぶことにより, 研究着手に際して必要な技術を習得する。</p> <p>(大学院セミナー)教授・准教授による専門性を凝縮した講義で, 個別の研究に幅を持たせ, 診療に従事する際の視野を広げる。</p> <p>これらを年間を通じた日程で行うが, 社会人学生には都合に合わせて選択履修が可能な措置を講ずる。</p> <p>(地域医療実践)社会人学生で, 特に地域医療にかかわる者にとっては, 指導教員と協議の上で地域医療実践計画書を作成し, 上記セミナーでの講義と共に自らが携わる医療現場での症例経験を検討し, 地域医療現場での業務の発表や報告書の提出をもって, 講義の一部に換えて評価する場合もある。</p>	全教員

医療コミュニケーション	医師と患者間のコミュニケーション問題を考察する。	(安部 剛) (森 茂) (中村 哲夫)
医学統計	医学研究計画の型，データの整理，標本分布，推定と検定，回帰分析，実験計画法，数理感染症モデル，線形数理学の基礎を講義する。また，実際の研究での統計解析例も紹介する。	(岡田 忠成) (江島 伸興)
医療情報システム学	病院情報システム全般を理解すると共に，診療情報から研究用のデータベースを作成する際に必要な知識と技術を習得する。	(三宅 秀敏) (島岡 章)

は担当教員不在のため，平成 20 年度は開講していません。

5．履修方法

- (1) 本研究科博士課程の修業年限は 4 年間で，その間に 30 単位を修得し学位論文の作成及び最終試験に合格することにより，修了することになります。
- (2) 修得すべき 30 単位の内訳は次に示すとおりです。

全領域共通の選択必修 4 科目の中から 1 科目 5 単位，所属する領域の授業科目の中から 1 科目 5 単位，また，他領域を含めた全ての授業科目の中から 1 科目 5 単位を履修し，合計 15 単位を修得します。

更に，テーマを決めた学位論文作成に至る「論文作成研究」として 5 単位を修得し，学位論文審査委員会の審査に合格した「博士論文」として 10 単位を修得します。

6．学位の授与

- (1) 博士（医学）の学位を授与します。
- (2) 学位は，大学院に 4 年以上在学し，授業科目について 30 単位以上を修得し，かつ，博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。
ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者については，大学院に 3 年以上在学した大学院学生についても授与することがあります。

7．入学料及び授業料

入学料 282,000 円

授業料（年額） 535,800 円（前期分 267,900 円 後期分 267,900 円）

注 1 入学料・授業料については，免除・徴収猶予・奨学融資の制度があります。申請手続きは，入学料・授業料の納付前に行う必要がありますので，詳細については学生支援課奨学支援グループ（TEL 097 - 554 - 7386）へ問い合わせてください。

注 2 入学料については，平成 21 年 3 月に本研究科及び本学の他研究科修士課程（博士前期課程を含む。）を修了し，引き続き本課程に進学する者は，納付する必要はありません。

注 3 授業料については，希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納入することができます。

注 4 国費外国人留学生については，入学料・授業料を納付する必要はありません。

注 5 入学料，授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には，新授業料が適用されます。

8. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり，本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は，次のとおりです。

大学院第一種奨学金（無利子）	月額 122,000 円
大学院第二種奨学金（有利子）	月額 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円から選択

9. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度

平成 18 年度より大分銀行と連携して発足した制度です。学生本人が大分銀行から当期授業料の融資を受けますが，元本返済は卒業後となり，在学中の利息を本人に代わり本学が支払います。（利息の返還義務はありません）融資制度利用については条件がありますので，詳しくは，学生支援課奨学支援グループ（TEL 097 - 554-7386）にお問い合わせください。

10. 学生教育研究災害傷害保険

この保険は，大学院在学中の実験・実習等の正課，学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷，死亡等の災害に対する補償制度であり，保険料は 4 年間で 3,900 円です。

11. 長期履修制度について

平成 19 年度から，長期履修制度を導入しました。

この制度では，標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は，有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者（家事，育児及び介護など）です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また，修学状況等の変動により，申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は，4 年間（標準修業年限）に支払うべき授業料総額を，あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期）に支払うこととなります。（下記の「授業料の納入例」参照）

なお，申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】（年度により変更がないと仮定した場合）

標準修業年限（4 年），授業料年額 535,800 円

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	2,143,200 円
535,800 円	535,800 円	535,800 円	535,800 円	

入学時に申請し，8 年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目
267,900 円	267,900 円	267,900 円	267,900 円	267,900 円	267,900 円	267,900 円	267,900 円

2,143,200 円 ÷ 8 年 = 267,900 円（1 年間の授業料）

大分大学位置図

大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス）

所在地 大分県大分市大字旦野原 700 番地

T E L 097-554-6701

交通アクセス JR 利用（JR 豊肥本線）

「大分大学前駅」下車（大分駅より約 12 分：240 円）、徒歩約 5 分

バス利用（大分バス）

トキハデパート前から

・「高江ニュータウン・大南団地」又は「大分大学」行きを利用。「大分大学」又は「大分大学正門」下車（約 40 分：360 円）

・「戸次，臼杵，竹田，三重，佐伯」行き等を利用。「大分大学入口」下車（約 40 分：350 円）、徒歩約 10 分

大分大学医学部（挾間キャンパス）

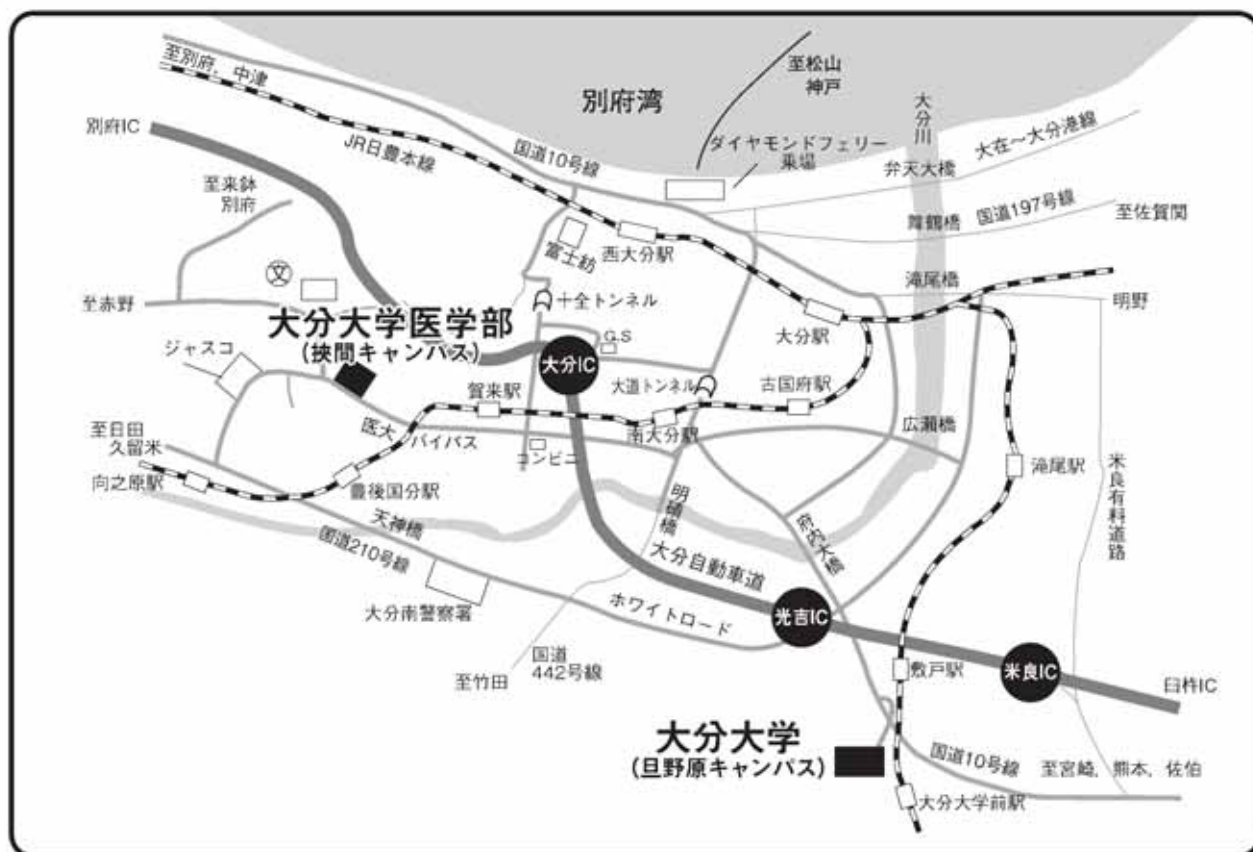
所在地 大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地

T E L 097-586-5540, 5541

交通アクセス バス利用（大分バス）

トキハデパート前又は JR 大分駅前から「大学病院」行きを利用。

（所要時間約 40 分：410 円）



入学試験に関する問い合わせ先

〒870 - 1192 おおいたけんおおいたしおおあざだんの はる 大分県大分市大字巨野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-6701

なお、この募集要項の内容はホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) にも掲載しています。